

1 文献名
『創立百周年記念誌 尾鷲市立三木小学校』
2 学校名
三木小学校
3 災害名
昭和 19 年（1944 年）東南海地震
4 記述の概要
（1）雨や風、地震などの様子
突然ものすごい地響きとともに、ぐらっぐらっ大地が揺れ、大人の声で「うつぶせになれ。」「動いたらあかん。」と口々に叫ぶ声がした。
（2）学校内や地域の被害の状況
（3）復旧の様子
（4）体験談
「大きな地震やったなあ津波がくるかも知れん。」と言いながら右往左往する人々の中をわが家へ帰ると、御膳が地震のため散乱していた。
（5）教訓など
（6）その他

1 文献名
『創立百周年記念誌 尾鷲市立三木小学校』
2 学校名
三木小学校
3 災害名
昭和 28 年（1953 年）台風第 13 号
4 記述の概要
（1）雨や風、地震などの様子
（2）学校内や地域の被害の状況
吹きまくる風と大波で製氷工場が壊れ、アンモニアの臭気があたり一面に漂っていた。台風が去り夜が明けると、海岸はもとの波打際に戻り、死んだ大きなマダイが打ち上げられていた。（P74～75）
（3）復旧の様子
（4）体験談
（5）教訓など
（6）その他

1 文献名
『創立百周年記念誌 尾鷲市立三木小学校』
2 学校名
三木小学校
3 災害名
昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風
4 記述の概要
(1) 雨や風、地震などの様子
(2) 学校内や地域の被害の状況
(3) 復旧の様子
(4) 体験談
(5) 教訓など
(6) その他
小学生にとって、海は大切な遊び場であり、遊び相手であったが、そんな海も、海岸線に壊滅的な打撃を与えた伊勢湾台風を境にして、その装いを徐々に変えていった。その後の復旧工事、整備事業により、現在に至ったが、それにつれて、海から子ども達の姿が消えていった。(P76)